

別記(一)

聾明書

今回の東京市電氣局の従業員に対する弾圧政策は我々の党の対市政策工俾又社会
 正義上から観ても断じて我が党の黙認を許さざるところである。破綻に瀕せり
 東京市電政の更生策として編みだされたる市電氣局整理案自体の中にブルジョ
 ア的会としてのかたまりの包蔵せられてあることを見道しては存せぬ。
 市電政の更生策は全体的立場に於て為さるべきであつて單なる市電氣局整理案
 に依りて従業員の敵首・質下はブルジョア的の當然荷負不可を負担を勤勞市民
 に強制的に転嫁するものにして市電政として未來を転倒せるものと言わなけ
 るべからぬ。
 我々の党の見解を以てするならば市電氣局整理案の如きものは策に據つては市の更生
 は永久に望む可くも存す。
 市電氣局と市会とが勝手に遂行した敗滅との間の醜悪なる取引と放擲たる敗政々
 策の練果として生じた二億三千万円なる赤字を市電氣局を通じて下級従業員に
 のみ転嫁を強要することは殊更に抵抗の脆弱なる部面を衝くことによつて自ら
 の責任を巧妙に迴避せんとする悪辣なる氣構の成は今後益々東電・日電・鬼
 怒電と市会職員との共謀するべき轉行を助長せんとする下心の何れかあること
 とを意味する。
 我々は斯くい須く下級従業員以外への赤字の転向けによる市員債整理案の創出
 を要求する。
 今回の東京市電氣局の整理案表裏をみれば従業員諸君が生活救済の見地よりし
 て敢然とス・ストの筆に出たことは市電氣局整理案が生活防衛の要なる事疑獄